



西尾張ブロック第15号

平成22年9月25日発行

<目次>

- | | | | |
|---|------------------------------|------------|-------|
| 1 | あいち防災リーダー会 一泊研修の旅に参加して(本部配信) | 知多ブロック研修担当 | 磯村美智子 |
| 2 | 県総合防災訓練に参加して | 犬山・扶桑支部 | 上原佳代子 |
| 3 | 北なごや防災ボランティアの水防訓練 | 北名古屋支部 | 小川 時子 |
| 4 | 稲沢の「防災・イン・サマー」に参加して | 稲沢支部 | 安田 裕典 |
| 5 | 県立一宮聾学校の防災訓練に参加して | 一宮支部 | 伊藤 善之 |
| 6 | ふれあいフェスタ2010に参加して | 北名古屋支部 | 土田 清治 |
| 7 | 防災よもやま話 29「今年の防災月間」 | 名古屋大学大学院教授 | 福和 伸夫 |
| 8 | お知らせ・掲示板 | | |

1 あいち防災リーダー会 7月2・3日一泊研修の旅に参加して

知多ブロック研修担当 磯村 美智子

今回で7回目となる研修旅行は、毎回名古屋駅でバスに乗った時から、研修の始まりとなる。自己紹介、防災DVDの上映、資料の配布などすべて防災に関連した話となっている。今回訪問する、「国土地理院」という名前は中学や高校で使った地図の本で覚えていたが、どんなところか行ってみるまでは想像がつかなかった。

つくば市にある国土地理院「地図と測量の科学館」では、名古屋出身の水藤尚氏が私たちのために「地震と地殻変動について」と題して、特別にパワーポイントによる講義をして下さった。そこで初めて聞いたいろいろな言葉が頭に残っている。

「星が伝える大地の動き」「GIS」「触地図」「全国に1240か所あるGPS連続観測システム」「一等三角点」「一等水準点」「GPSによる地殻変動監視」「衛星SAR」「水準測量による地殻変動監視」「スロースリップ現象発生の意義」「地震は一カ月に一万回起きている。

国土地理院 VLBI <http://vlbldb.gsi.go.jp/sokuchi/vlbi/ja/index.html>

国土地理院地理情報システム GIS <http://www.gsi.go.jp/GIS/>



水藤先生のパワーポイントは無理を言って頂いてきたので、興味のある方はお近くの参加者へご連絡ください。添付ではお送りできません。

夕食時には、ご機嫌になられた方々が、いい歌声を披露して下さい、その後一部屋へ集まり、恒例の防災談義と情報交換となった。



翌日は、東京へ。皇居前の気象庁の「気象科学館」へ入り、広報係の辻本さんと、一昨年来まで名古屋気象台におられた上田さんが丁寧に案内をして下さった。35名だったので、18名と17名の2班に別れ、実際に作業をされているところを窓から見せていただきながらの説明だった。気象に関するデータは2社と契約し、東京と大阪で同じように作業をし、片方のデータが得られないときは、もう片方から補填できるようにしているという事だった。

気象庁は国土交通省に所属し、大事な仕事をまとめると以下のようなものである。

気象を観測する。 解析をする。 数字を意味のあるものにする。 天気図にする。 言葉にする。(現業作業) 天気予報 国民に向け、情報として発信する。

そして、あとで当たったか、当らなかったか反省と検証をする。気象に関しては、どこの県でも気象台があり、100年以上現場が作ってきた歴史があるそうだ。見せていただいた職場では、驚くほどの数のパソコンが並んでいて、一日中パソコンで仕事をする。そして、台風や地震の時はもっと大勢の人が仕事に携わり、情報が飛び交い、殺気立ってくると言っておられた。何気なくテレビやラジオで聞いている情報は、こうした人たちが地道に仕事をして得られた結果なのだとな納得した。本当にごくろうさまと感謝である。



「気象情報」と一口にいても、本当に多くの情報システムがあり、改めて情報を受け入れる私たちが学習することが必要だと感じた。

<http://www.bousai.go.jp/jishin/johokyoyu/2/02-02shiryu12-kisho.pdf#search>

=全国予報中枢'

防災リーダーとして、今後地震や水害など、天気図やデータなども読み取ることができるようになれば、と思うがどうだろうか。少しずつでも情報を受け取る側からも努力していきたいと感じた研修旅行だった。

2 県総合防災訓練に参加して

犬山・扶桑支部 上原 佳代子

東海地震・東南海地震連動を想定した県総合防災訓練が、8月29日(日)午前、一宮市千秋総合運動場で開催されました。猛暑の中、地域住民や電気・ガス・水道・電話・鉄道・医療・日赤奉仕団など関係機関、県・一宮市・警察・消防・自衛隊などの行政を含め約2千人余りが参加されました。

あいち防災リーダー会は、防災の展示コーナーを担当し、本部から早川会長や鳥山さん、西尾張ブロックから稲沢・岩倉・江南・北名古屋・犬山・扶桑各支部と地元一宮支部との総勢20名ほどで、簡易トイレ、ぬりえ、非常持出品ゲーム、台車ぶるる、風船、AEDを含む心肺蘇生法、防災グッズ、家具固定モデルなどを分担して啓発活動を行いました。

特にお子様には、ぬりえや風船、台車ぶるるが人気があり大勢の方が集まりました。大人には牛乳パックで作る簡易トイレ、非常持出品ゲーム、AEDを含む心肺蘇生法などに集中しました。難聴者も展示コーナーに来られ、AEDを含む心肺蘇生法を手話を交えて説明をしました。

アレルギー支援ネットの方も一隅でアレルギー食品などを展示され、安全な非常食などを訴えていました。隣のブースでは、一宮の防災ボランティアの方々が、自主防災会や小



中学生のボランティアを集めてボランティア支援本部の立上げ訓練を実施されていました。

台車ぶるるでは、筋交いを入れることによる建物補強、家具固定モデルによる家具の固定方法の説明なども行ないました。このような啓発の他、毎月一日の災害用伝言ダイヤル171の体験、近所づきあいをよくするため向こう三軒両隣を大切にしたいと思います。



3 北なごや防災ボランティアの水防訓練

北名古屋支部 小川 時子

7月4日(日)北名古屋市の水防訓練に参加しました。合併後は交互に会場としているので、昨年とは違う場所でしたがすることは同じ「災害ボランティア支援センターの立ち上げと運営」でした。

昨年は流れもわかっていただけていたので安心していましたが、今年はテントの張り方から始めたので少し戸惑いがありました。しかし活動参加マニュアルがいつも黄色なのに今回白に変わったただけなのにばたばたしたりしたのは、まだ理解できていないことを知ることになりました。



同じボランティア仲間が駆けつけボランティアとして参加してもらえ、その人たちにシミュレーションを説明することも、多いに勉強の場になりました。



いつ来るかも知れない災害ですが、この頃は地震よりも身近なゲリラ豪雨とかがよく言われるようになりました。同じボランティア仲間として、いざという時には元気に活躍していただけるようにまた8月の防災訓練でも参加していただけますので、同じ間違いは繰り返さないようにしたいと思います。



4 稲沢の「防災・イン・サマー」に参加して

稲沢支部 安田 裕典

6月22日に「防災ボランティア稲沢」は16名の参加を得て、名古屋市内の防災関連施設を見学・研修しましたので報告いたします。

1、名古屋市防災センター

初めに港区の名古屋市防災センターを体験・研修しました。この名古屋市防災センターへはリピーターの方も多くいましたが、家具の固定方法・地震体験室・煙避難体験室などの体験、伊勢湾台風を知る・地震と津波のメカニズムなど、防災の基本を体験し研修してきました。

2、東邦ガス(株)災害対策本部

災害発生後、直ちに活動を始めた確かな対策を講じる都市ガスの防災活動の中核となるのが災害対策本部とのことです。

ここではさまざまな情報を収集・集約して迅速な意思決定を行っています。意思決定を支援するため、情報を120インチ×3面スクリーンに表示するほか、座席にもモニターを備えています。



最後に災害対策本部の地下に入り、建物自体が免震構造になっているその面新装置と停電時に備える自家発電設備(ガスコージェネレーション)の見学をして、東邦ガス(株)災害対策本部の見学・研修を終えました。

5 一宮聾学校防災訓練に参加して

一宮支部 伊藤 善之

台風9号が通過した翌日の9月9日(木)午前、暑さが戻り晴天の中、一宮聾学校の防災訓練が行われ、防災啓発活動に岡崎の太田さん、岩倉の森さんの他、一宮の会員合わせて11名が参加しました。今年で4回目の支援となります。

10時までに集合して、防災訓練開始の10時45分までに体育館で6つのコーナーの準備を実施しました。6つのコーナーは、非常食・記念品渡し めりえ ストローハウス 簡易トイレ 非常持出品ゲーム 防災クイズ です。他に壁側に非常持出品グッズ・家具転倒防止グッズのパネル展示をし、DVDビデオ視聴も準備されました。

10時45分に避難訓練が開始され、第一次避難(机の下にもぐる)、第二次避難(運動場避難)して校長先生の講評の後、幼稚部の児童から順次体育館の防災啓発場に移動していただきました。最初に保護者たちが入ってこられ、簡易トイレ・非常持出品ゲームのコー



ナーで話を聞いていただきました。そうするうちに、幼稚部の児童たちが元気よく入ってきました。児童たちには五目飯や乾パンの非常食を食べてもらい、ぬりえの記念品を渡しました。その後、小学部低学年・小学部高学年・中等部・高等部の生徒が順次入って来て、最初に非常食の試食をしてもらい、割当てられた各コーナーを巡回してもらいました。

非常食は、少量ですが皆が喜んで食べていました。防災クイズと非常持出品ゲームは今年初めて取り入れたもので、防災クイズは中等部・高等部向けと小学部向けで内容を変えました。中には、先生により手話で説明を聞いて一生懸命答えようとしている生徒もいて、大変ほほえましく思えました。ぬりえやストローハウスも熱心に体験していただきました。

自然災害の怖さを知ってもらい、それに対する備えを理解していただく良い機会になったと思っています。最後に、教頭先生から我々に感謝とねぎらいの言葉をかけていただきました。

6 ふれあいフェスタ2010に参加して 北名古屋支部 土田 清治

9月12日(日)午前9時30分より北名古屋市健康ドームにおいて、ふれあいフェスタ2010が開催されました。北名古屋市主催、社会福祉協議会共催で市民団体のもと、健康・福祉・エコ・ボランティアをテーマに多数の市民の来場がありました。

模擬店・物産品やさまざまな展示やアトラクション・体験コーナーもあり、大人からお子様まで家族そろって楽しめるイベントになりました。

ボランティア体験コーナーでは、ガイドヘルプ・手話・要約筆記・車いす・点字・高齢者疑似体験などができ、私たち防災ボランティアは新聞紙でのスリッパ作成・紙ぶるの組み立て・毛布での担架などの体験をしていただきました。スリッパにおのあの絵を描くなど、お子様にも楽しんでいただける工夫をしました。

また体験の3つの内1つを体験してもらおうとスタンプラリーの対象になるので、それぞれにたくさんの参加者がありました。

体験以外にも100円均一で用意できる防災グッズや、簡易トイレ等の展示もしました。

大規模災害が懸念される昨今、このようなイベントを通じて、今後も市民の皆様にも少しでも防災意識を持っていただけるような活動をしていきたいと思っております。





7 防災よもやま話 29 「今年の防災月間」

名古屋大学大学院教授 **福和 伸夫**

APLAの皆さん、こんにちは。

この原稿は、名古屋大学で開催されたあいち防災リーダー塾の開講式に出て防災概論のお話をした後で書いています。リーダー塾には、愛知県内各地から100人もの方々が集まってくださり、新たな防災リーダーを目指そうとしてくれている様子を見て、大変うれしくなりました。NPO法人としてのリーダー塾の初めての開催であったこと、県の中野防災局長自らが出席してくださり挨拶をしてくださったこと、従前に比べ若い方々の参加が多かったことなど、APLAのこれからが期待できる雰囲気を感じました。

さて、防災の日を挟むこの1ヶ月間は様々な防災イベントが行われました。そこで、小生が携わったこの1ヶ月間の防災活動について、備忘録代わりにまとめておきたいと思います。

防災クイズでびっくりした緊急地震速報の周知度

私の今年の防災月間のスタートは8月22日(日)でした。当日は、一日、NHK名古屋のプラザウェーブ21で防災クイズの公開ラジオ番組にお付き合いしていました。2時間の番組で、前半が地震災害、後半が気象災害でした。何問かの問題を出しましたが、とても残念だったのは、3家族の親子の回答者のお一人も緊急地震速報のことをご存じなかったということです。緊急地震速報が始まって3年が経ちますが、まだまだ、地震に関わることが十分に市民の方々に周知できていないことが分かり、防災リーダーの皆さんの啓発の役割がとても大きいことを実感しました。

高校生防災セミナーでの高校生たちの素晴らしいアクションプラン

翌日、8月23日(月)には、愛知県教育委員会と名古屋大学が共催して実施している高校生防災セミナーの発表会がありました。このセミナーは、平成16年度より愛知県教育委員会が主催して行われてきましたが、本年より、高大連携の形で県と大学が共催する形で実施することになりました。セミナーは夏期休暇中の4日間の座学・実学学修と、2学期の実践活動、年末の活動成果発表会から構成されています。APLAの皆さんにも全面協力していただいています。本年は、県内の高校15校(県立12校、国立1校、名古屋市立1校、私立1校)から、生徒・教員計75名が参加しました。8月23日は、各学校での防災活動のアクションプラン作成のワークショップとその発表会が行われました。各校の防災アクションプランは内容・発表の仕方のいずれも素晴らしく、これからが大いに期待できそうです。高校生たちは、12月24日には再び名古屋大学に集まり、シンポジオンで2学期に実施する活動成果を発表する予定です。さらに、2年目には高校生自らが地域に出て行き、地域での防災活動を主導する防災リーダーとして活躍する予定です。ぜひ、APLAの皆さまと良い協働ができると良いと思っています。



三河地区での防災講演会

8月最終週の土日（8月28日&29日）は、中日新聞が企画した防災講演会に参加していました。豊橋、岡崎、豊田で講演をしましたが、3地区での防災意識の違いを多少感じて帰ってきました。いずれの会場も、若い方々の参加が少なかったのが少し残念でした。徐々に、地震対策への関心も薄れてきているのかもしれませんが。

つボイノリオさんとの「開府400年と地震」のトーク

ここ数年、防災の日、9月1日は、毎年、つボイノリオの「聞けば聞くほど！」に出演させて頂いています。今年も、つボイさんや小高さんと「歴史から学ぶ地震対策」についてお話をすることができました。今年名古屋開府400年ですから、安土桃山時代の地震についてお話をしました。450年前の桶狭間の戦いの後、本能寺の変、大阪城の築城、天正地震、家康の江戸への転封、朝鮮出兵、慶長の四国・別府・伏見での地震、地震加藤（清正）方広寺の大仏と伏見城の倒壊、関ヶ原の戦い、南海トラフでの慶長地震、名古屋への清須越などを振り返り、400年前の大阪、江戸、名古屋のまち作りの特徴についてお話をしました。

9月1日は国の総合防災訓練の日でした。当日は、初めて、東海・東南海・南海地震が連動して発生した訓練が行われました。また、民間人が初めて総合防災訓練に参加し、その一人として、ボランティアとの連携を担うためにレスキューストックヤードの栗田暢之さんが選ばれ、自衛隊のヘリコプターに乗りこまれました。ぜひ、栗田さんから、体験談を聞きたいと思っています。

大阪教育大学付属池田小学校での防災教育談義

9月2日は、大阪府池田市にある大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターに出かけて、防災教育についてのお話をしてきました。このセンターは、2001年6月8日に附属池田小学校において23名の児童及び教員が殺傷された事件を契機に、学校危機支援やメンタルケアに関する研究を実施するために池田小学校の敷地内に設置された研究機関です。発足当初は、事件対応もあり防犯を中心とした研究教育が行われていましたが、最近では、南海地震への危機感もあり、防災教育も重視しようとの機運が高まっているようです。今回は、私どもが実施している防災教育の取り組みについてお話をさせていただきました。ちなみに、同センターには、名古屋大学で心理学の学位を取得した豊沢純子先生が赴任されており、名古屋との縁もあるセンターです。

テレビ塔でのライトダウン

9月3日の夜には、テレビ塔で行われた防災フェスタの前夜祭に参加しました。テレビ塔のライトダウンと10個のスポットライト点灯、胡弓の調べの中で、10年前に東海豪雨で犠牲になった10人の方々への追悼を行いました。当日は、APLAの皆さまも、様々な形でご協力いただき、ありがとうございました。会には、衆議院災害対策特別委員会委



員長の五十嵐文彦議員を始め、衆議院、県会、市会の議員、愛知県の中野防災局長や名古屋市の長崎危機管理官を始めとする自治体の皆さん、数多くのボランティアや防災リーダーの皆さんが集まってくださいました。胡弓の調べの中で、10年前を思い出す素晴らしい機会となりました。ライトダウン&胡弓の調べの様子は、全テレビ局・全新聞社が取材してくれたようです。以下に、このイベントの背景を少しだけご説明しておきます。

従来、内閣府防災担当が主導し、政令市が持ち回りで実施していた国の防災フェアが、財政難のあおりで、本年から東京タワーだけの開催となり、地域での開催ができなくなりました。私を含む何人かが、これでは、地域での防災の火が消えてしまうのではと危機感を感じ、レスキューストックヤードの栗田さん、名古屋テレビ塔の大沢社長、内閣府の方々と相談して、東京タワーでのライトアップに呼応して、名古屋テレビ塔でライトダウンや防災フェスタを開催することを企画しました。

レスキューストックヤードが久屋に引っ越したこと、地デジ化により名古屋テレビ塔が来年7月でテレビ塔としての役割を終えテレビ塔の今後の存続に向けて様々な検討をしていたこと、内閣府防災の皆さんも地域と東京との連携を模索しており東京での防災フェア開催に小生もお手伝いしていたこと、などの環境があり、内閣府・テレビ塔・RSYとの連携がとてもうまくいきました。

名古屋テレビ塔が東京タワーでのライトアップに連携することが決まったことがきっかけとなり、タワー協議会が中心になっての呼びかけに対し、全国10か所のタワーが呼応し、9月3日の夜に一齐にライトアップ・ダウンが行われました。当地では一宮の138タワーもライトアップをしてくれました。こういった地域間連携ができたことは、今後への様々な可能性を拓くことになったと思います。

それと、名古屋テレビ塔だけがライトダウンをすることになった本当の理由は、水銀灯でライトアップしているため、瞬間的にライトアップできなかったからです。そこで、栗田さんの発案で、10年前の犠牲者を追悼するためライトダウン&10灯のサーチライトの点灯ということに致しました。

テレビ塔での人力加振の振動実験

9月4日は、早起きをして、朝7時からテレビ塔で振動実験を実施しました。名古屋テレビ塔は、我が国最初の電波塔として1954年に建設され、登録文化財にもなっています。テレビ塔の設計者は内藤多伸で、その後、通天閣や東京タワーの設計も手がけました。地デジ化で、テレビ塔としての機能を終えたあとも、未永くテレビ塔を残してもらいたいと関係者で考え、テレビ塔の下に免震装置を入れる耐震補強が検討されています。今回の振動実験は、免震補強設計に先だってテレビ塔の揺れ方を調べるためのものです。まず、テレビ塔の揺れやすい周期を調べ、その周期で、大人数が体を左右に動かすことによりテレビ塔を揺るという人力加振実験を実施しました。当日は、名古屋大学の教員・学生に加え、名古屋工業大学や椙山女子学園の教員・学生も参加し、25人程度の人数でテレビ



塔を揺すりました。テレビ塔は思いのほか良く揺れ、参加者一同びっくりしました。この実験の様子は、当日のNHKのニュースで全国に流れたようで、建築学会などでも護雅史先生のスウィングの様子が話題になりました。

テレビ塔での防災フェスタ

9月4日は、人力加振実験でヘトヘトになった後、10時から防災フェスタ2010 in 久屋大通に参加しました。名古屋大学の私どものブースでは、学生たちが様々な耐震実験教材を使って耐震化啓発に取り組んでくれました。また、お昼の時間には、RSYの栗田さん、名古屋テレビ塔の若山さん、にしボラの安井さんと一緒に、「名古屋の防災とテレビ塔のこれから」についてのミニトークを行いました。テレビ塔の保存や防災活用について、市民の皆さんと様々な議論ができました。

さらにこのミニトークのあと、東京タワーでの防災フェアと連携して、「災害に立ち向かう市民の連携～東京会場とのSkype中継～」と題したミニトークを行いました。テレビ塔周辺には無線LANの設備が整っており、これを利用して、東京タワーの講演会場とスカイプ中継をしました。スカイプ中継は初めての試みで、飛田潤先生や護雅史先生の奮闘努力で実現ができました。東京会場では、東京いのちのポータルサイトが主催した「住宅密集地における耐震化対策」と題した防災トークが行われており、国土交通省の渋谷さん、東急電鉄の寿乃田さんなどに加え、名古屋から参加していた愛知県の川端さんもテレビを通して参加してくれました。スカイプを利用した防災トークが可能になると、今後、地域での連携イベントもずっとやりやすくなるのではないかと思います。

東京タワーでの防災フェア

名古屋テレビ塔での防災フェスタの翌日、9月5日は、東京タワーで開催していた防災フェアに参加しました。私は、時事通信の中川さんと一緒に防災トークショーに出演しました。当日は、内閣府が主導する「一日前プロジェクト」や「耐震化対策」、「災害被害軽減のための国民運動」などについて、中川さんと漫談をしてきました。

建築学会大会での兵庫県南部地震15周年の討論会

9月8日～10日は、富山で開催された日本建築学会大会に参加していました。今年は、阪神淡路大震災から15年ですから、この15年で何が分かり、何が課題として残っているのかについて、討論会を開催してきました。

CBCの特番「迫りくる！天変地異・東海豪雨から10年」

9月11日は、CBCの特番に群馬大学の片田先生と一緒に出演しました。今年で10作目になりますが、毎年こういった番組を作っているCBCの皆さんに敬意を表したいと思います。昨年は、伊勢湾台風50周年、本年は東海豪雨10周年にあたるので、こ



の2年間は風水害が中心の番組作りとなっていますが、来年は濃尾地震120周年ですから、地震のウェイトが増えると良いと期待しています。

東海・東南海・南海地震の連動性評価に関する研究の中間報告会・中電ホール

9月16日は、午前中に構造設計井級建築士の講習をした後、中電ホールで開催された表記報告会に参加しました。当日は、神田知事のあいさつが予定されていましたが、突然の引退会見で急きょあいさつはキャンセルになったようです。この研究プロジェクトは文部科学省が主導する大規模研究プロジェクトで、小生も末端で参加をしています。当日は、サイエンス中心の話題が多かったですが、第3部のパネルディスカッションでは、私が進行役となり、プロジェクト研究従事者に加え、内閣府の越智参事官、愛知県の中野防災局長、中電の服部部長、時事通信の中川編集長にも参加してもらい、今後の地震防災課題の議論も行いました。内閣府・越智参事官より、3地震連動を前提にした大綱化を目指して本格的な検討に入ることなどが公表され、今後の防災対策に大きなドライブがかかることが実感させられました。

その後夕刻からは、NSLを開催し、軽食とアルコールを嗜みながらお昼には聞きにくかった本音トークセッションが執り行われ、色々な課題が多いことが明らかになりました。

防災フェスタの打上げ

9月17日の夕刻には、防災フェスタの打ち上げが、浩養園で盛大に行われました。当日は、10月から渡米するRSY・浦野さんの送別会も行われました。会では来年もフェスタを続けることを皆で誓いました。

あいち防災リーダー塾

9月18日には、あいち防災リーダー塾に参加してきました。例年にも増して若い方々が参加されていたことに心強さを感じました。新たなAPLAのメンバーの増強になることを期待しています。

地域で様々な取り組みが行われていることを実感した1ヶ月でした。日ごろ地域で活動されている皆さまの奮闘に感謝します。それではまた次回。

8 お知らせ・掲示板

APLAのメーリング配信が新しくなりました

9月18日(土)平成22年度第3回あいち防災リーダー会の役員会において、APLA-IT委員会の報告を受け、「**apla-all-new**」に切り替わりました。



これを受け、

西尾張ブロック主催のIT研修会を開催します

日 時 10月24日(日) 13:30~14:30 (受付13:00)

場 所 稲沢市総合文化センター1階 市民活動支援センター

(稲沢市国府宮3丁目1 0587-21-8000)

持ち物 ノートパソコン・LANケーブル(なくても可)

新しいメーリングリスト・ヤフーグループの上手な活用方法を学びます。

参加希望の方は、河村文雄事務局長 Eメール fnthkawa@owari.ne.jp宛
10月10日(日)までにお申込ください。

名古屋大学防災アカデミー

会場はいつでも名大環境総合館1階 レクチャーホール

参加費無料で、事前予約もありません。直接会場へどうぞ

第63回 「防災教育のフロンティア」

講師 矢守克也(京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授)

日時 10月14日(木) 18:00~19:30

第64回 「減災社会を築く」

講師 岩田孝仁(静岡県危機管理部危機報道監)

日時 11月 9日(火) 18:00~19:30

第65回 「タイトル未定」

講師 今村文彦(東北大学大学院工学研究科

附属制御研究センター教授)

日時 12月 2日(木) 18:00~19:30

編集後記

今夏は猛暑・酷暑で大変でしたが、皆様お元気にご活躍のことと思います。
秋も防災に関する行事やイベントが続きます。APLAの活動を通して防災意識が
高まるよう頑張りましょう。投稿をお待ちしています。 広報担当 森 千代子